

「座右の銘」って何？

おはようございます。

今日は、「座右の銘」についてお話します。「座右の銘」とは、常に自分の心に留めておいて、戒めや励ましとする言葉のことをいいます。「座右」とは、皇帝が自分の右手側の席に、信頼できる補佐役を座らせた重要な席を指しています。また、「銘」とは、鐘や器などに刻む文体の一種であり、自分自身の戒めや他人を賞賛する目的で刻んだものだそうです。

「人は言葉で強くなる」と言われています。自分の目標や生き方を迷わずまっすぐ進めるように、「座右の銘」を決めておくと良いでしょう。座右の銘は一生変えなくてもいいし、途中で変えてもかまいません。また、自分が思い立ったときに決めてもかまいません。歴史に残る偉人や現在世の中で活躍している人たちは、道しるべとなる言葉をたくさん残しています。ある人の生き方に感動したときなど、その人の言った言葉を書き留めておき、自分がいつも目にする家の壁や机のそばに大きく貼っておきましょう。

ここで、いくつか様々な分野で活躍している人たちの言葉を紹介しましょう。林真理子という作家は「やってしまった後悔はだんだん小さくなるけど、やらなかった後悔はだんだん大きくなる」、大リーグのレンジャースに移籍が決まったダルビッシュ有投手は「過ぎた過去は変えられないから今から出来ることをどうするか考え行動する」を座右の銘にしています。また、よく四文字熟語を座右の銘にする人もたくさんいます。周りのことに左右されずにひとつのことにまっすぐ進んでいこうとすることは「一心不乱」、人に自分の夢や目標を話してがんばっていこうとすることは「有言実行」、全力で物事にあたるときには「全力投球」といったように初めて座右の銘を決めてみようと思った人は、人に聞いたり、本を読んだりしてみたいでしょうか？先生たちもそれぞれに座右の銘をもっているかもしれませんね。ちなみに私の座右の銘は「きつい道を選べば、学ぶことがある」です。人間はいつも楽な道を選んでしまいがちですが、あえてきつく大変な道を選ぶことで、知らなかったことがわかったり、人との新たな出会いがあったり、大変なことを克服する力がついたりしていくのではないかと思います。皆さんも是非自分なりの座右の銘をもってみてください。

最後に、現在お休みをしている難聴学級の川満先生のことについてお話します。年が明けて冬休み中に、川満先生のご主人（私立高校教員）が海外における宿泊行事の生徒の引率中に脳梗塞で倒れてしまいました。川満先生は急きよご家族とともに現地に向かいました。しかし、集中治療室に入った状態でしたが、現地では治療が難しいということで先週の16日（月）に飛行機のチャーター便で帰国し、都内の病院の集中治療室で治療を受けており、川満先生は付き添って身の回りの世話をしているところです。この事態で難聴学級の指導は、別の教員で対応するようにしていますが、26日の一年生の鎌倉史跡めぐりも参加することができません。私と副校長先生で今週水曜日入院している病院に行き、お見舞いを兼ねて今後のことについてお話をします。その後のことについて皆さんにお知らせいたします。みんなでご主人の回復をお祈りしましょう。